

競技上のご注意とお知らせ

<<オリエンテーリング競技規則>>

- (社)日本オリエンテーリング協会が定める「日本オリエンテーリング競技規則」に準じて実施する。
(社)日本オリエンテーリング協会 <http://www.orienteering.or.jp/>
- タイム計時の方法はEMIT社製Ecardとタッチフリーユニットを使用する。
- 選手が棄権を希望する場合には、近くの係員にその旨を報告し、Ecardを提出すること。
- 競技者はゴミを捨ててはならない。
- 競技者は競技会場で火を扱ってはならない。
- 競技者はコース上でタバコを吸ってはならない。
- 競技者は植物あるいは動物の生態系を過度に破損・妨害してはならない。

<<トレイルランニング競技規則>>

- 主催者によって定められた山岳コースにて、個人単位のタイムレース方式とする。所要時間の短い者が上位となる。
- クラス毎にフィニッシュ閉鎖を設ける。また50kmクラス・30kmクラスには関門を設ける。選手はフィニッシュおよび関門を制限時間内に通過しなければならない。制限時間内に通過できなかった選手は失格となり、係員の指示に従わなければならない。
- 競技中、各選手は常に下記の装備品を携帯(必携品)しなければならない。
 - ①ホイッスル、②熊鈴、③参加同意書に電話番号を記載した携帯電話
 - ④1リットル以上の水分、⑤防寒具(長袖で防風性のあるもの)、⑥ライト(予備電池は推奨)※各クラスの必携品は以下の表に示す。(●が必携品)

クラス	①ホイッスル	②熊鈴	③携帯電話	④水分	⑤防寒具	⑥ライト
50km	●	●	●	●	●	●
30km	●	●	●	●	●	●
15km	●	●				
5km						

- ストック(ポール)や杖の使用を許可する。ただしスタートから3.0km地点までは使用を禁止する。その間は必ずザックに装着することとし、手に持って走ることも許可しない。
- 主催者は救護所に給水所を設ける。その他の場所には給水所、給食所などは準備しない。
- 競技中に使用する目的で、競技前にコース上に食料や用具を置いてはならない。また、競技中に全ての食料や用具をコース上で捨ててはならない。
- 選手は、主催者によって指定されたコースに従って走行しなければならない。コースは距離看板と方向指示看板および、ピンク、赤、白のいずれかのストリーマーによって表示されている。スキー場のコース内は指定が無い場所ではコース幅の何処を走行しても構わない。ただし主催者側が競技運営上のチェックとして制限を設けている場合は、それに従わなければならない。
- タイム計時の方法は手動計時とEMIT社製Ecardとタッチフリーユニットを併用する。また各コースの通過証明はEMIT社製Ecardで行う。競技中にEcardを紛失した場合は失格となる。
- 選手が棄権を希望する場合には、近くの係員にその旨を報告し、Ecardを提出すること。
- 遭難信号を聞いた者は、競技を中断し、必ず救助活動を行わなければならない。これらの救助活動中に発生する競技規則違反は罰則として課せられない。
- 競技者はゴミを捨ててはならない。
- 競技者は競技会場で火を扱ってはならない。
- 競技者はコース上でタバコを吸ってはならない。
- 競技者は植物あるいは動物の生態系を過度に破損・妨害してはならない。

<<ロゲイニング競技規則>>

●コース上のチェックポイントを指定された時間内に見つけることにより得点が与えられる。得点はチェックポイントへの到達の難易度により異なる。チェックポイントは任意の順番にまわることができる。より多くの得点を獲得したチーム、もしくは同点の場合にはより早くフィニッシュしたチームが上位となる。

※「コース」とは、ロゲイニング競技時間中にチームで移動する場所全てを指す。ただし、主催者により指定された競技外地区やアクセス道路を除く。

●コース上に持ち込むことのできるナビゲーション用具は、競技地図、方位磁石および時計である。本大会ではこれら以外のナビゲーション用具としてGPS受信機、万歩計、高度計をコース上に持ち込むことを許可する。競技地図に示される情報以外の追加情報のある地図の持ち込みは許可しない。

●競技中、各参加者は常に下記の3つの装備品を携帯(必携品)しなければならない。

①ホイッスル、②熊鈴、③参加同意書に電話番号を記載した携帯電話(チームで最低1台)

●参加者は自力で移動しなければならない。動力の付いた移動手段や、自転車、カヌー、馬などを利用した移動は許可しない。

●コース上では、チームの構成員は、互いに声の聞こえる範囲内で行動しなければならない。この点について主催者あるいは他チームから確認された場合には実証しなければならない。

●チームは他人から助力、協力を受けてはならない。また、故意に他チームに続いてはならない。

●チームで使用する目的で、競技前にコース上に食料や用具を置いてはならない。また、競技中に全ての食料や用具をコース上で捨ててはならない。

●主催者は、コース上に給水所、給食所などは設けない。本大会では参加者はコース上にある公衆用の販売(売店、自動販売機など)は利用をしても良い。ただしゴミは捨ててはならない。

●参加者は、故意にチェックポイントなど主催者によってコースに設置された設備に危害を加えてはならない。

●各チェックポイントの通過証明はEMIT社製Ecardを使用する。競技中にEcardを紛失した場合は失格となる。

●参加者が棄権を希望する場合には、チーム構成員全員でスタート地区に戻り、主催者にその旨を報告すること。棄権選手が出たチームは、その時点で競技終了となる。

●遭難信号を聞いたチームは、競技を中断し、必ず救助活動を行わなければならない。これらの救助活動中に発生する競技規則違反は罰則としてチームに課せられない。

●参加者は農地や植林地、主催者により指定された立入禁止区域を横断してはならない。本大会では競技地図に記載された道路、道、小道、小径以外は通行してはならない。競技中は交通規則を遵守しなければならない。

●競技者はゴミを捨ててはならない。

●競技者は競技会場で火を扱ってはならない。

●競技者はコース上でタバコを吸ってはならない。

●競技者は植物あるいは動物の生態系を過度に破損・妨害してはならない。

<<その他>>

- ・上記の競技規則に違反した者や、係員の指示に従わなかった者は失格となります。
- ・競技上における変更事項は受付横の公式掲示板にてお知らせいたします。
- ・参加者が自分自身・あるいは第三者に与えた損害・損失等について、主催者は一切その責任を負いません。
- ・本大会参加者には傷害保険を付保しております。ただし、少額ですのでご自身でも保険準備と健康保険証の持参をおすすめします。
- ・本大会は最小限の人数で運営しますので、参加者の皆様も円滑に運営進行するようご協力をお願いします。
- ・ゴミは必ず持ち帰ってください。

計測機器（EMIT 社製 Ecard）について



～EMIT 社製 Ecard (イカード)～
オリエンテーリング (各自1つ)
トレイルランニング (各自1つ)
ロゲイニング (1チーム1つ)
で使用



～コントロールユニット～
(パンチフリーユニット)
オリエンテーリングで使用。
パンチ (接触) の必要が無く、ユニットから 1 m 以内を通過することで電波により反応 (Ecard に記録) する。
※Ver. 2 の Ecard を使用する場合、ユニット中央にパンチ (接触) する必要がある。
Ecard に通過の記録が残っていない場合、失格となる。



～コントロールユニット～
～コントロールフラッグ～
●トレイルランニングで使用。
コース中のチェックポイントに設置されている。
基本的に Ecard にパンチの記録がないと、失格となる。

※無人なので要注意！

●ロゲイニングで使用。
各コントロール (チェックポイント) に必ず設置されている。
基本的に Ecard にパンチの記録が残らないと得点にならない。

※第二受付周辺に見本がありますので必ず確認をしてください。

オリエンテーリング・コースプロフィール (コース設定者 信原 靖)

本テレインは、旧ゴルフコースを利用したオープンテレインです。植生も良く高速レースになることが予想されます。

イベント	クラス	ウイニング	距離	クラス	ウイニング	距離	イベント	クラス	制限時間
		予想タイム			予想タイム				
ミドル ディスタンス	M50A	25分	3.5km	W50A	25分	3.5km	スコアオリエン テーリング	B	90分
	M35A	25分	4.5km	W35A	30分	4.5km			
	M21A	25分	5.0km	W21A	30分	5.0km			
	M20A	25分	4.5km	W20A	25分	3.5km			
	M18A	35分	3.0km	W18A	30分	3.0km			
	M15A	25分	2.5km	W15A	30分	2.5km			
	M12	25分	2.0km	W12	30分	2.0km			

信原 靖 (北海道オリエンテーリング協会)

日本オリエンテーリング協会公認ディレクター。(社)日本オリエンテーリング協会理事、北海道オリエンテーリング協会理事長。1997年スキーオリエンテーリング・ワールドカップ第2戦(オーストリア・チェコ)に参戦。1998年長野冬季オリンピック文化プログラム併設国際A級競技会にて団体戦3位入賞。2007年第33回全日本オリエンテーリング大会(北海道)競技責任者。World Ski Orienteering Championships 2009(スキーオリエンテーリング世界選手権大会 2009)地図作成者。



トレイルランニング・コースプロフィール (コース設定者 横山 峰弘)

本大会の競技エリアは主にスキー場、牧草地、林道(一般道を含む)から構成されており、コース幅が広く追い抜きが容易なコースのためスピーディーなレース展開が予想されます。

●50kmのコースレイアウトはルスツリゾート園内をスタート・ゴールとし、ウエスト山頂から国道をトンネルでくぐり、ゴルフコースをイゾラ山頂を通り抜け裏側へ、北海道を満喫しながら複数のロードを経由してイースト山頂。登距離2,885mで5.6%。昨年より少しきつくなっています。オンロードが6.3kmで12.4%は昨年より減少しています。中盤にシングルトラックを走る部分が集中しており、明確なセクション分けがされています。

●30kmのコースレイアウトはルスツリゾート園内をスタート・ゴールとし、ウエスト山頂から国道をトンネルでくぐり、ゴルフコースを通り抜け、イゾラ山頂とイースト山頂の3山を制覇します。登距離1,690mで5.6%。オンロードが5.1kmで16.7%で昨年より減少しています。コースの周り方がシンプルでストレスなく走ることが出来ると思われます。

●15kmのコースレイアウトはルスツリゾート園内をスタート・ゴールとし、ウエストから国道をトンネルでくぐり、ゴルフコースを通り抜け、イースト山頂を目指します。登距離765mで4.8%。またオンロードが4.4kmで27.5%と多めになっています。

●5kmのコースレイアウトは、ウエストMtスキー場を景色の良いところまで登るコースです。スキー場上部まで行き往復をします。

広々とした景色、北海道ならではの雰囲気、小川を飛び越え、自然を体中で感じるでしょう。アップダウンのあるコースをおもいっきり楽しんでください。



ロゲイニング・コースプロフィール (コース設定者 信原 靖)

本テレインは、羊蹄山と洞爺湖を結んだほぼ中間付近の留寿都村の丘陵地帯です。2009年3月にスキーオリエンテーリングの世界選手権大会が開催されたエリアを中心に広大なエリアでの競技が期待されます。今回は北海道での3度目の開催で、各チェックポイントは容易な設定になっていますが、前回よりもさらにプランを重要視する設定になっています。地図は国土地理院発行の地図を使用しているため、ルートを選択余地はあまりないと思います。是非、北海道の景色と広さを楽しんでください。